

市コミュニティバス「こもろ愛のりくん」および「愛のりすみれ号」の今後の方向性について（案）

1 これまでの運行のポイント

小諸市の市コミュニティバスは、平成 28 年度から、それまでの市内 11 路線での定時定路線バスから、予約制相乗りタクシー( デマンドタクシー )の形態へ、下表により変更を行いました。

【表】平成 28 年度からの市コミュニティバスの変更点

変更のポイント	変更内容
1 コンパクトなまちづくりに対応した、自宅から目的地までの移動手段の確保	予約制相乗りタクシー「こもろ愛のりくん」を昼間、市内全域で運行する。
2 通勤通学者や来街者にも対応した多様なニーズへの対応	こもろ愛のりくんの車両を利用した、定時定路線バス「愛のりすみれ号」を朝・夕、市内 6 路線で運行する。
3 交通事業者等との連携	市内のタクシー事業者が運行を担い、商店主等を中心に新たに設立された「株式会社まちづくり小諸」が運行管理を担う。

2 4 年間の運行で挙げられる課題

「こもろ愛のりくん」は、平成 28 年度の利用者 45,000 人ほどに対して、平成 30 年度の利用者は 58,000 人ほどまで増加し、年間の実利用者 1,500 人ほど、1 週間に 1 回以上利用する者が 700 人ほどなど、高齢者の方を中心に利用が広がっています。

一方、「こもろ愛のりくん」利用者の方からは、9 時の運行開始時間の早朝への拡大を要望する意見が多く、また、午前中の時間帯へ利用が集中することで、応援便を出す対応の増加や運行管理事務のはん雑化が起こり、事業費増大の要因の一つとなっています。

「愛のりすみれ号」は、平成 28 年度の利用者 20,000 人ほどから、平成 30 年度には 17,000 人ほどへ減少しており、特に通勤通学者の利用の減少により、当初の 7 路線・34 便のうち、1 路線・14 便 が休止しています。

令和 2 年 10 月 1 日予定

3 地域公共交通の今後の取り組みの方向性

市コミュニティバスの変更に向けては、地域公共交通の関連事業について、「高齢者の外出支援」、「通学支援」、「障がい者の移動支援」、「通勤支援」、「その

他日常生活、観光・交流人口の増加促進」の5つの分野から、現状把握と今後の取り組みの方向性を確認しました。

#### 分野1「高齢者の外出支援」

「こもろ愛のりくん」の利用が広がっている一方、平日の午前中に利用が集中していることから、利用時間の拡大などのニーズに対応することで利便性の向上を図るとともに、利用の平準化など効率化を進め、持続可能な運行を目指すこととする。

また、利便性の向上に加え、外出機会の創出や交通安全につながる、「こもろ愛のりくん」の利用浸透策を、総合的に検討・実施する。

#### 分野2「通学支援」

通学路の状況により、個別の意見は出されているが、一部地区を除き、「愛のりすみれ号」のような路線運行は、路線上で需要の低さや運行車両の確保の点から対応が難しく、小・中学校の児童・生徒においては、遠距離通学の支援を行い、高校生以上においては、鉄道・地域幹線バスなど、近隣市町を結ぶ幹線的な公共交通の維持・運行支援を行うものとする。

加えて、路線運行によらない、通学支援のあり方を、将来的な課題に位置づけ、研究を進めていく。

#### 分野3「障がい者等の移動支援」

障がいの程度に応じて、福祉有償運送もしくは「こもろ愛のりくん」やタクシーによる、市内における移動支援が行われており、引き続き、これらによる移動支援を中心に行う。また、福祉有償運送を利用するまでに至らないものの、一人でサポートなしに「こもろ愛のりくん」を利用できない方については、今後のニーズの想定も含め、移動支援のあり方の研究を進めていく。

#### 分野4「通勤支援」

通学支援と同様に、「愛のりすみれ号」のような路線運行は、路線上で需要の低さや運行車両の確保の点から対応が難しく、鉄道・地域幹線バスなど、近隣市町を結ぶ幹線的な公共交通の支援を中心に行うこととする。

また、幹線的な公共交通の利用を促進できるよう、駅周辺の駐車場を含め土地利用のあり方の研究を進めていく。

#### 分野5「その他日常生活、観光・交流人口の増加促進」

市コミュニティバスは、市民生活における移動支援を主としており、観光・

交流向けに市外の利用者まで拡大することが、車両の確保や運行効率の点から、現時点では難しいことから、鉄道・地域幹線バスなど、近隣市町を結ぶ幹線的な公共交通の支援を中心に行うこととする。ただし、市内の観光・交流における移動方法の選択を増やすため、運休時の「こもろ愛のり君」の車両の利用した旅客イベントをはじめ、市コミュニティバスを活用した社会実験は、事業効果を確認しながら、検討・実施していく。

#### 4 運行形態の改善（変更）のポイント

市コミュニティバスにおける今後の取り組みは、「高齢者等の外出支援」を中心に行うこととし、利便性と効率性の両立に配慮した運行を行うため、次のとおり運行形態を変更することとします。

【表】運行形態の改善（変更）のポイントの一覧

改善項目	具体的な改善（変更）内容
1 「こもろ愛のりくん」の利便性向上	「こもろ愛のりくん」の運行開始時間を朝9時から朝8時へ拡大し、当日予約も1時間早めることで、利用の浸透を促進するとともに、現在の利用集中の分散を図ります。
2 定時定路線バス「愛のりすみれ号」の休止	「こもろ愛のりくん」の運行時間の拡大に伴い、利用者が減少する朝夕の定時定路線バス「愛のりすみれ号」は全路線休止します。
3 「こもろ愛のりくん」運行の効率化	「こもろ愛のりくん」の利用者の少ない土曜日の午後3時からの便とタクシーによる応援便を休止し、効率的な運行を図ります。

そして、利便性の向上に加え、外出機会の創出や交通安全などにつながる、付加価値の高い運行を目指すため、高齢者の方を中心に、市コミュニティバスの利用浸透を促す事業に取り組みます。具体的には、次の事項など、様々な分野から総合的に効果を検証し、事業の具体化を図るものです。

- 自家用車を所有している方などの利用時の負担軽減
- 高齢者福祉センター等生活利便施設と一連で利用した際の負担軽減サービスの提供 など

また、こもろ愛のりくんでは対応できないニーズや、潜在的なニーズに対して、具体的な利用ニーズや詳細な運行方法の検討などの路線化に必要な様々な情報を集め、将来の運行に役立てるため、様々なニーズに柔軟に対応する試験運行の実施を検討します。

## 5 市コミュニティバス運行にかかる指標の検討

市コミュニティバスの運行にあたっては、利便性と効率性の両立に配慮した運行が行われていること、外出機会の創出や交通安全などにつながる、利用の浸透が図られていることを、確認・検証を行いながら、適宜、改善していく必要があります。

そのため、確認・検証に必要となる指標を検討します。なお、現在、挙げられる指標は、次のとおりです。

【表】 市コミュニティバス運行にかかる指標（案）

項目	確認・検証の概要	現状値
1 実利用者数	利便性の向上により、利用の浸透が図られ、 <u>利用者が増加している状態</u> を、実利用者数で確認・検証する。	1,506人 /年間
2 乗車人員	相乗りが進み、 <u>効率性が向上している状態</u> を、乗車人員で確認・検証する。	2.5人/台
3 市民満足度 (重要度)	利便性の向上により、利用の浸透が図られ、 <u>市コミュニティ交通を身近に感じてもらっている状態</u> を、市民満足度(重要度)にて確認・検証する。	1.829(指数) 全27事業中17位 R元年こもろ・まちづくり市民意識調査
4 運行事業費の 収支比率	<u>利便性と効率性が両立されている状態</u> を、利便性の向上による収入の確保と効率化による事業費との比率である、運行事業費の収支比率にて確認・検証する。	13.0%
5 小諸駅・市庁舎等施設での 降車率	市コミュニティバスの運行が、 <u>高齢者の外出機会の創出など、多極ネットワーク型コンパクトシティのまちづくりに寄与している</u> か、全体降車人数のうち、小諸駅・市庁舎・複合型中心拠点誘導施設での降車人数の割合から確認・検証する。	22.6%

## 6 今後のスケジュール

市コミュニティバスの変更については、次のスケジュールにより予定します。

- 令和2年10月 市コミュニティ交通の方向性の公表と意見募集（広報11月号による）
- 令和3年1月 市コミュニティ交通の変更案（具体案）の公表と意見募集（広報2月号）
- 3月 市コミュニティ交通の変更案の決定
- 5月 市コミュニティ交通変更内容の周知
- 10月 市コミュニティ交通の変更の実施

施策	時間帯	曜日	種別	番号	交通手段：事業	利用状況	課題等	今後の取り組み	担当課
1 高齢者の外出 機会の創出	昼間（9時～16時）	月曜から土曜（祝日除く）	市内	1	デマンドタクシー「こもろ愛のり君」：市コミュニティバス	延べ利用人数 54,145 人 1日当たりの利用者数 185 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>ニーズの高い朝時間の拡大による利用浸透</li> <li>利用の平準化（利用集中の回避）などの運行の効率化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>早朝への運行時間の拡大により、利用の浸透を図るとともに、利用の平準化を促す。</li> <li>利用率の低い土曜日の午後便の休止、ハイブリッド車両の導入、応援便の原則廃止により運行の効率化を図る。</li> </ul>	都市計画課
	全日	全て	市内	2	高齢者タクシー利用助成事業（乗車1回につき、500円自己負担で1,000円まで使えるタクシー利用助成券を交付。助成券交付上限：年間30枚）	利用実人数 221 人 発行枚数 4,512 枚 決算額 3,544,766 円	<ul style="list-style-type: none"> <li>補助金の範囲内で利用できる地域の固定化（乗車運賃 1,000 円以内範囲）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>R2年度事業終了</li> <li>交通安全や外出機会の創出など、様々な課題に対応するための総合的な取り組みの検討を行う。</li> </ul>	高齢福祉課
					3	地域ケア推進会議（愛のりくんを含めた移動手段の課題解決について）	<p>【組織構成】小諸北佐久医師会小諸支部、北佐久歯科医師会小諸支部、小諸北佐久薬剤師会、介護事業者等連絡会、介護支援専門員連絡会、区長会、高齢者クラブ連合会、民生・児童委員協議会、小諸北佐久医療・介護連携推進協議会、高齢者福祉事業及び介護保険等運営協議会、小諸警察署、健康づくり課、厚生課、市民課、地域包括支援センター、生活支援コーディネーター</p> <p>【設立】平成27年度</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【基本目標】地域包括ケアシステムの深化・推進</li> <li>【R2年度テーマ】誰もが行きたい場所に行くことを移動手段がないことを理由にあきらめなくても良い地域（市内ケアマネージャー、健康達人区らぶ参加者、民生児童委員協議会、市内タクシー会社、在宅サービス調整会議、地域包括支援センター個別ケース、生活環境課、池の前高齢者見守り隊、愛のりくんコールセンターへのヒアリング、意見交換など）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題の掘り起し、現状把握、対応の研究及び検討（高齢者の安全運転を支える取り組み、公共交通への正しい理解への取り組み、公共交通に早くからなれる取り組み、長く乗り続けられる取り組み、公共交通施策に働きかける取り組み、住民同士の移送の仕組みづくり）</li> </ul>
2 通学支援	朝夕	平日	市内（一部）	4	西小諸地区：水明小学校スクールバスの運行（朝1便、夕2便）	利用登録者数 108 人 決算額 27,732,688 円 （水明小、小諸高校の費用の総計）	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行事業者の確保</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、運行を継続できるよう、運行事業者の確保に努める。</li> </ul>	都市計画課
	朝夕	平日	市内（一部）	5	小諸駅：小諸高校スクールバスの運行（朝4便、夕4便）	延べ利用者数 51,192 人 決算額 27,732,688 円 （水明小、小諸高校の費用の総計）	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行事業者の確保</li> <li>利用者負担額の検討など事業収支の改善</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き、運行を継続できるよう、運行事業者の確保に努める。</li> <li>運賃や運行の効率化について、高校側と引き続き懇談を行う。</li> </ul>	都市計画課
	朝夕	平日	市内（一部）	6	愛のりすみれ号（朝2便程度、夕2便程度）：デマンドタクシー車両を活用した市コミュニティバス	延べ利用者数 13,896 人 1日当たりの利用者数 58 人	<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンドタクシー「こもろ愛のり君」との連動</li> <li>利用ニーズ・利用者の減少</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンドタクシー「こもろ愛のり君」の運行時間の拡大にあわせ、休止</li> <li>通学利用が一定数ある、御牧ヶ原線および川辺線における、遠距離通学児童の対応を検討すること。</li> </ul>	都市計画課

施策	時間帯	曜日	種別	番号	交通手段：事業	利用状況	課題等	今後の取り組み	担当課
	全日	平日	地域幹線	7	千曲バス佐久上田線：運行支援	小諸市内 1日あたり乗降者数 75人 負担金額 3,584,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ニーズ・利用者の減少</li> <li>運行の継続（運行の収支）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行事業者と沿線自治体と運行の継続にかかる協議を引き続き行う</li> </ul>	都市計画課
	平日	平日	市内	8	遠距離通学支援 小学生 4km以上、中学生 6km以上	小学校 52人 中学校 8人 決算額 461,260円	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路の状況により、交通安全対策やスクールバスへの意見が個別に出されている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続</li> </ul>	学校教育課
	全日	全て	地域幹線	9	JR小海線、しなの鉄道：増便事業支援（小諸・軽井沢間14便増便）、車両更新支援、設備保守支援	JR小海線小諸駅乗降者数 599,103人 しなの鉄道小諸駅乗降者数 1,062,271人 しなの鉄道負担金額 27,030,198円	<ul style="list-style-type: none"> <li>しなの鉄道：車両の更新、設備の保守</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しなの鉄道：車両の更新、設備の保守など、運行の継続支援について、しなの鉄道沿線市町の協議会にて、引き続き協議を行う。</li> </ul>	都市計画課
3 障がい者等の移動支援			市内	10	福祉有償運送（一人で公共交通を利用できない方を対象とした仕組み、営利目的ではなく、小諸市福祉有償運送運営協議会で協議を調べて認可されるもの、車両は車いすの利用を前提としたもので、介助の有資格者が運行）	社協延べ利用回数 551回 1日あたり利用者 2~3人 事業費約 1,130,000円 運賃収入決算額 545,810円 登録ドライバー 20人 登録車両 3台	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業実施者を確保する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続</li> </ul>	厚生課
			市内	11	重度心身障害者等タクシー利用料金助成金 <ul style="list-style-type: none"> <li>身体障害者手帳所持者、視覚障がい、下肢障がい、体幹機能障がい1・2級又は上肢2級以上かつ下肢4級以上で単身世帯の者</li> <li>療育手帳所持者で程度がA1の者</li> <li>自動車税の減免を受けた者、施設入居者は除く</li> <li>所得税が課税されていない世帯市税の滞納がない者</li> </ul>	R2年度予算 450,000円 （利用1回につき880円月3回分、年間36回分）	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援であり、継続が必要である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業継続</li> </ul>	
	昼間（9時～16時）	月曜から土曜（祝日除く）	市内	12	デマンドタクシー「こもろ愛のり君」：市コミュニティバスの運賃の低減	低減運賃での延べ利用者数 18,831人 負担相当額 3,166,200円	<ul style="list-style-type: none"> <li>優先的な利用の案内</li> <li>福祉有償タクシーを利用するまでに至らないものの、一人でサポートなしに市コミュニティバス等を利用できない方の対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンドタクシー「こもろ愛のり君」の運行の変更にあわせて、障がい者・通院の方へ優先的に利用案内するよう、コールセンター・事務を改善</li> </ul>	都市計画課
4 通勤支援	全日	全て	地域幹線	13	JR小海線、しなの鉄道：増便事業支援（小諸・軽井沢間14便増便）、車両更新支援、設備保守支援	JR小海線小諸駅乗降者数 599,103人 しなの鉄道小諸駅乗降者数 1,062,271人	<ul style="list-style-type: none"> <li>しなの鉄道：沿線の事業所での利用促進</li> <li>利用促進のため、駅周辺駐車場のあり方など、土地利用の検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しなの鉄道：沿線の事業所での利用を促進するよう、しなの鉄道沿線市町の協議会にて取り組む。</li> </ul>	都市計画課

施策	時間帯	曜日	種別	番号	交通手段：事業	利用状況	課題等	今後の取り組み	担当課
						しなの鉄道負担金額 27,030,198円			
	全日	平日	地域幹線	14	千曲バス佐久上田線：運行支援	小諸市内1日あたり乗降者数75人 負担金額3,584,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ニーズ・利用者の減少</li> <li>運行の継続（運行の収支）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行事業者と沿線自治体と運行の継続にかかる協議を引き続き行う</li> </ul>	都市計画課
	朝夕	平日	市内（一部）	15	愛のりすみれ号（朝2便程度、夕2便程度）：デマンドタクシー車両を活用した市コミュニティバス	延べ利用者数13,896人 1日当たりの利用者数58人 委託料概算額31,187,726円	<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンドタクシー「こもろ愛のり君」との連動</li> <li>利用ニーズ・利用者の減少</li> <li>市内の移動の選択肢を広げること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デマンドタクシー「こもろ愛のり君」の運行時間の拡大にあわせ、休止</li> <li>市コミュニティバスを利用した社会実験の検討</li> </ul>	都市計画課
5 その他日常生活、観光・交流人口の増加促進	全日	全て	地域幹線	16	JR小海線、しなの鉄道：増便事業支援（小諸・軽井沢間14便増便）、車両更新支援、設備保守支援	JR小海線小諸駅乗降者数599,103人 しなの鉄道小諸駅乗降者数1,062,271人 しなの鉄道負担金額27,030,198円	<ul style="list-style-type: none"> <li>しなの鉄道：増便事業の継続、駅前駐車場の活用（周知）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しなの鉄道：しなの鉄道活性化協議会（小諸市、御代田町、軽井沢町、しなの鉄道）にて、増便事業の継続に向けた協議を引き続き行う。</li> <li>しなの鉄道：駅前駐車場を活用したパークアンドレールライドの周知を、しなの鉄道とともに進行。</li> </ul>	都市計画課
	全日	平日	地域幹線	16	千曲バス佐久上田線：運行支援	小諸市内1日あたり乗降者数75人 負担金額3,584,000円	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用ニーズ・利用者の減少</li> <li>運行の継続（運行の収支）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>運行事業者と沿線自治体と運行の継続にかかる協議を引き続き行う</li> </ul>	都市計画課
	全日	全日	地域幹線	17	JRバス関東高峰線 全日2便、土休日及び特定日+2便		<ul style="list-style-type: none"> <li>観光路線としての存続維持、情報発信の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用促進策の検討</li> </ul>	
	全日	全て	市内	18	タクシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内タクシー事業者3社</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者の減少</li> <li>代行業者などとの競合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用促進策の検討</li> </ul>	